



BLUE  
&  
GREEN

Tama Blue & Green Club Magazine

# たまの力

## INTERVIEW

- P2** **トップリーダーに聞く**  
株式会社菊池製作所 代表取締役社長 菊池 功 氏
- P3** **新事業にチャレンジ**  
アルウェットテクノロジー株式会社 代表取締役 能美 仁 氏
- P4** **事業承継を経験して**  
株式会社未来樹脂 代表取締役社長 境野 智久 氏
- P5** **グローバル企業の最前線**  
株式会社栄鑄造所 代表取締役社長 鈴木 隆史 氏
- P6** **地域貢献**  
株式会社MNH 取締役社長 小澤 尚弘 氏
- P7** **倶楽部事業レポート**



お客さまの幸せづくり  
**たましん**

# 仕事に対する姿勢とまなざしが 周囲の人の心を動かし、行動を促す



株式会社 菊池製作所  
代表取締役社長  
きくち いさお  
**菊池 功氏**

福島県生まれ。学校卒業と同時に上京し、カメラの試作品などを製造するメーカーに就職。1970年、26歳で菊池製作所を創業し、6年後に株式会社設立。

**自社に蓄積された  
「匠の技」で多様な  
ものづくりを支援する**

精密板金加工から金型製造、成形、鋳造などにおいて、試作から量産までを行う株式会社菊池製作所。

近年では「ものづくりメカトロ研究所」を中心に、サポートロボットの産業の活性化にも注力する。「ものづくり支援」をコアとする会社だ。同社は国内2カ所に13工場、海外2カ所に2工場の生産拠点を置き、顧客企業から出されるさまざまな課題に「一括一貫体制」で対応している。「当社はあえて国内に主力工場を置き『匠の技』を重要視してきました。金型や

試作品を作る場合、図面通りに組んだとしても、やっぱり微調整が必要になります。特にロボット関係では、その微調整こそ大切で、技術力を問われます。性能とコストだけではない、使う人や用途に合わせた微妙な調整が求められるんです。そこに当社が持つ『匠の技』が生かせると思っています」と菊池功社長。

一括一貫体制だからこそ蓄積された技術とノウハウで、さまざまなものづくりをサポートしている。

**困難なことにも自ら進んで  
取り組む姿勢を望む**

創業から50年の歴史を持つ同社の従業員数は、現在約350名に上る。その先頭に立

ち、会社を牽引する菊池社長は「理想的なトップリーダー」との呼び声が高く、顧客企業からも従業員からも信頼と尊敬を集めている。

「菊池社長は社内においても社長室にこもることはなく、常に社員の声に耳を傾けています。シヨールームでも多くの商談ブースに参加し、社員と同じ目線でお客さまに説明されている姿に、私たちもやらねばと刺激を受けています」とは、ある従業員の言葉だ。

菊池社長の仕事に対する前向きな姿勢や真摯なまなざしが、周囲の人を自ずと動かすのだ。そんな菊池社長自身は、従業員の一人ひとりにどんなことを望んでいるのだろうか。

「この先、時代がどんなに変わろうとも、日本の社会を支える土台は『ものづくり』であると思っています。その信念の下、自社で開発した製品は、少数であったとしても『ものづくり』に貢献し、日本の強さの原動力として機能してきたいと思っています。そのことに誇りを持つとともに、これからも日本発の『ものづくり』にこだわる魂を持ち、自ら進んで困難なことに取り組む進取の気性に富んだ社員であることを期待しています」

現在、大学や研究機関、ベンチャー企業など15社のスタートアップに出資している同社。菊池社長のいう『ものづくり』にこだわる魂が、新たなチャレンジを支えている。

第5回多摩グリーン賞 最優秀賞受賞

株式会社 菊池製作所  
<http://www.kikuchiseisakusho.co.jp>

東京都八王子市美山町2161-21  
TEL:042-651-6093 FAX:042-651-7890  
E-mail:i-hoshikawa@kikuchiseisakusho.co.jp(担当:星川 樹)  
●創業:1970年4月 ●従業員数:343名(2020年2月末現在)



社長のひとこと

当社の「一括一貫体制」は最初からできたわけではなく、お客さまの要望に応えるため新しい技術を取り入れ、必要なノウハウを積み重ねてきた結果です。この体制でお客さまのものづくりに最適なプロセスを提供し、課題に応じていきます。

## アルウェットテクノロジー株式会社

代表取締役

のうみ ひとし  
能美 仁氏

東京都出身。大手電気メーカーで30年にわたり、航空機搭載および人工衛星搭載レーダーの開発に従事。2007年にアルウェットテクノロジー株式会社を設立。

社会に役立つ開発を  
目指しチャレンジ防災・建設分野向けの  
新システムを開発！

■左：取締役 能美 陽 氏、右：代表取締役 能美 仁 氏

自社の強みを生かして  
人々の暮らしに貢献したい

「自社の技術を人々の身近なところにも活用できないか」

アルウェットテクノロジー株式会社の能美仁社長は、こんな観点から新技術の開発に着手した。

同社は航空機や人工衛星に搭載する合成開口レーダーの開発、製造、技術支援をコアテクノロジーとする会社で、このレーダー技術を活用し、ビルや橋梁など大型建造物の微小変位を計測・画像化するシステムを考案。開発には莫大な費用がかかることから、すぐには着手できなかったものの、後に内閣府主導の「戦略的イノベーション創造プログラム」に応募・採択され、実用化へと運んだ。

「以前私が勤めていた会社では、大型で非常に高価な官公庁向けのシステムを開発していました。その当時から、より小さくより安い、民間企業でも使える製品をつくりたいとアイデアを温めていたのですが、この事業分野はあまりにもニッチで、大企業においては低価格化を実現することが不可能でした」

しかし自分の会社であれば、低コストで開発できる、短期的な利益ばかりを追求するのではなく、国のため、社会のために役立つものづくりが可能であると考え、独立し、会社を立ち上げたのだという。

「宇宙・航空」分野を主なフィールドとする同社が、「防災」「建設・測量」分野に新たに参入した背景には、能美社長のものづくりへの強い思いがあった。

若い技術者に経験の場を与え  
ものづくり文化を  
絶やさない

アルウェットテクノロジーの基盤技術開発においては、徹底した内製化と若手技術者の育成に注力している。その理由を能美社長はこのように話す。

「バブル期以降、大手企業はシステム設計のみを自社で行うことが多くなりまして。回路設計や詳細設計、製造は外注先に任せることが多いため、せっかく優秀な学生が入社しても経験する場がないということも多々ありました。そんなことでは良い技術者は育っていきません。当社では可能な限り内製し、若手技術者にどんどん経験してもらい、育ってもらいたい。また、内製化することで、開発期間の短縮や低コスト化、小型軽量化も可能になり、万が一問題が発生した時も迅速に対応できます」

日本のものづくりの技術と精神を後世へとつないでいくためにも「内製化」はひとつのキーワードとなるようだ。

## 第10回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

## アルウェットテクノロジー株式会社

<https://www.altek.jp>

東京都三鷹市下連雀3-2-24

TEL:0422-43-7535

E-mail:h-nohmi@altek.jp

●創業：2007年6月 ●従業員数：13名(2020年2月末現在)



## 社長のひとこと

以前、欧米の会社と仕事をした際、70歳近い技術者が技術専門家として活躍している姿を見てうらやましく思いました。私の会社も、技術者が豊かな報酬を得ながら、年金に頼らずいつまでも活躍できる場にしたいと思っています。



## 株式会社 未来樹脂

代表取締役社長

さかいの としひさ  
境野 智久氏

埼玉県出身。上智大学理工学部を卒業後、他社にてシステム開発に携わる。1997年8月に株式会社未来樹脂に入社。2019年9月、代表取締役に就任。

## 創業家からの事業承継

## 社の文化を大切にしつつ

## 新たな風を吹かせたい

プラスチック製品の開発・製造・販売を行う株式会社未来樹脂。近年では、使用済みプラスチックの再生・再利用などを通じて、ゼロエミッションの循環型社会

昨年9月、境野智久社長は、前社長である荻原岳彦会長から事業を承継した。そのときの気持ちを境野社長はこのように語る。

「50年以上もの長い年月をかけて創業家が育んできた会社です。その大切な会社を一族とは無縁の人間が継ぐわけでも知られている。」

## さまざまな経営者の話を聞いて代表としての視点と心得を知る

から、その責任の重さを痛感しました。私でよいのでしょうか、というのが素直な実感でした」

「役員になってからの1年間は、月替わりで著名な経営者のセミナーを受講し、本音や失敗談に耳を傾けてきました。回を重ねるごとに、自分が経営者ならどうするか、どうあるべきかを考える

ようになりました。このセミナーへの参加は、現在の私にとってとても有意義な経験だったと思います」

## 会社の走路を広く、平らにして次のランナーへバトンを渡す

「現在はまだ助走期間。荻原会長と並走しながら、実務的なことは私が行い、経営者としてやるべきことや考え方を、会長から学んでいるところです」と境野社長。

代表に就任した日からすぐに、会社の決定・決断を行うのではなく、時間をかけて事業承継を緩やかに進めてこられたことが会社全体にとってよかったですと感じている。

「私は後継者というより、社員の代表としてこの会社のバトンを渡されたと感じています。そしてそのバトンを次のランナーに渡すだけ。しかし、その走路はもっと広げて平坦な状態にして渡したい。この会社の文化や社風を大切にしつつ、新たな風を吹き込みたいのです」

今後はAI・IoTを取り込み、既存のプレキャスト業界や自動車部品業界に対して、自社ならではの技術を生かして、特徴のある製品やサービスを提供し、「現在ある4つの事業部を盤石にしたい」と語ってくれた。

## 第12回多摩ブルー賞 最優秀賞受賞

## 株式会社 未来樹脂

<https://www.miraijushi.co.jp>

東京都小平市学園東町1-7-14

TEL:042-346-1131 FAX:042-346-2020

E-mail:sakaino@miraijushi.co.jp

●創業:1971年8月 ●従業員数:33名(2020年2月末現在)



## 社長のひとこと

自分は「直感的」な人間。思考途中は理詰めでも、最後はカンに頼ります。予定調和では飛躍はなく、最終段階で二択となったらおもしろい方を選択! 経営者として失格かもしれませんが、今までのところいい結果につながっています。

## 海外に拠点を置いて マーケティング グローバルな視点と 自社の技術で さらなる飛躍を目指す

株式会社 栄铸造所

代表取締役社長

すずき たかし

鈴木 隆史 氏

東京都出身。高校卒業後、他社に就職し、4年間働く。1996年に祖父の代から続く株式会社栄铸造所に入社。2003年に父から事業を引き継ぎ、代表取締役役に就任。

### 欧米への視察で気づかされた 自社の弱点に向き合う

創業から68年目を迎える株式会社栄铸造所。大手電機メーカーからアルミ铸造部品を受注生産するところからスタートしたが、現在では開発・提案型のビジネスを主とし、取引先も海外メーカーが8割を占める。米国・フィリピン・韓国にマーケティング拠点を配置し、世界に向けてアンテナを張る。グローバルな視点とアイデア、蓄積された技術が同社の強みだ。海外展開に着手したのは、4代目の鈴木隆史社長だ。鈴木社長がはじめて海外視察に出かけたのは、今から10年前。その当時、リーマンショックの影響から受注が激減し、100%受注生産だった自社の体制に危機感を覚えたことがきっかけだという。

「最初はアジア諸国への視察にはじまり、後に欧州や米国のシリコンバレーにも足を運びました。そこでは、中国や韓国の企業が現地に根付いて2〜3年先の注文を受けていました。その当時、自分の会社は数カ月先の受注に四苦八苦していたので、この違いに愕然としたんです。この差を生んでいるのは何かと考えてみると、思い当たるのがいくつもありません。投資家向けのプレゼンテーションひとつにしても、自社紹介に留まらず、自分たちの技術や製品で世の中の困りごと

をどう解決するか、それをどうビジネス化していくかをプレゼンすることが大切だと気づきました」

鈴木社長はこの時、「グローバル意識を持つこと」「外国人や英語に対する苦手マインドを克服すること」「トップだけでなく、従業員の意識づけにも注力すること」を固く決意し、海外展開への戦略を練ったのだという。

### 海外の人財を生かし 独自性のある 製品・サービス開発へ

現在、栄铸造所の全従業員のうち約30%を外国人が占めている。米国、フィリピン、韓国、台湾、カメルーン、エチオピア、イランと国籍もさまざま。外国人を雇用する理由を鈴木社長はこのように話す。

「まず、海外の人財ならではのアイデアを自社の技術で実現し、オリジナリティのある製品・サービスを開発できるところに大きなメリットがあります。また、海外の大学から直接インターンシップを経たうえで雇用しているケースもあり、自社のアイデアを海外の大学へ提案し現地で研究開発が可能になるという利点もあります」

今年も米国、フィリピン、ベトナムの大学から日本に興味のある人財を受け入れ、さらなるネットワークの構築とビジネスの拡大を目指している。

#### 第14回多摩グリーン賞 特別賞受賞

株式会社 栄铸造所

<http://www.sakae-v.com>

東京都八王子市下恩方町350

TEL:042-651-9790 FAX:042-651-9794

E-mail:info@sakae-v.com

●創業:1952年6月

●従業員数:26名(海外事業所含む/2020年2月末現在)



#### 社長のひとこと

昨年、「はちおうじ未来塾」卒業生10名で、ジョイントベンチャー「(株)発ジャパン」を設立しました。この会社を通じて、今まで構築してきた海外ネットワークや経験を中小企業の皆さまのお役に立てたいと思っています。

## 地域の課題と資源を結びつけ、知恵と工夫で商品化

## 「地域商社」という考え方

若者のパワーとアイデアを  
ヒット商品にして課題解決

地域の困りごとや課題、資源、人などを  
知恵と工夫で結びつけて、商品開発を  
行う株式会社MNH。これまでも「ゾン  
ビスナック」や「天狗の鼻かりんとう」な  
ど、ヒット商品をいくつも誕生させてき  
た会社だ。仕掛け人は、取締役を務める  
小澤尚弘社長。

「地域商社」の成り立ちについて、小澤社長はこのように話す。

「若い人が起業する際のひとつのやり方として、ビジネスモデルを考えようというのが『地域商社』のはじまりです。若い人はお金もなければ社会に対する信用もない。雇ってもらうことを一番に考えている日本の教育の中で、なかなか起業する芽が出ない。やろうと思っても、設備投資に多額の費用がかかるのに銀行はお金を貸してくれない……というのが現状ですよね。しかし、実際には作ってくれる場所はあるし、売ってくれるお店もある、手伝ってくれる人たちもいるんです。そうであれば、アイデアでこれらをつなぎつけて、地域内で商社的な機能を私たちが果たせるのではないかと考えました」

地域を想い、行動を起こし、なんとか地域活性化につなげたいと願う若い人たちのパワーを地域に生かす、それが「地域商社」の狙いなのだ。

今、企業に求められているのは  
多様性を認め、生かすこと

2016年、MNHは「コミュニティ工場」を設置した。社会や企業の仕組みと合わず働く場所を失った人たちに、働く機会を創出するために設けられた工場だ。ここでは「作るものや会社の都合ではなく『働くヒト』に合わせること」「一人ひとりがモノを作って売る」「商売の視点をもって働くこと」「週4日出勤でも正社員」という3つの約束事が謳われている。

「人を生かす・地域を生かす」社会に向けて、企業には今、どんなことが求められているのか？と小澤社長に聞いてみると、こんな答えが返ってきた。

「多様性を認め、それらを生かすためのアイデアを会社側が考え続け実践すること。仕事と個人をワークライフバランスで区分けするのではなく、仕事も個人の人生の中のひとつと捉えて、個人の成長を促すこと。地域は、会社のような縦型の組織ではなく、横型の組織です。そのことを理解し、まずは社会との関わりをつくる必要ですね」

## 第11回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

## 株式会社 MNH

<https://www.mnhhappy.com>

東京都調布市調布ヶ丘1-34-1

TEL:042-443-1351 FAX:042-443-1352

E-mail:info@mnhappy.com

●創業:2008年3月 ●従業員数:24名(2020年2月末現在)



## 社長のひとこと

ヒット商品を生み出すための着想のヒントとして、4つの視点を大切にしています。「世の中にありそうでなかった半歩先のものづくり」「誰も気づいていないような新しい分野」「作れること、それを欲しいと思う人がいること」「競合他社・競合商品がないこと」。



## 株式会社 MNH

取締役社長

## 小澤 尚弘 氏

東京都出身。専門学校在学中からNPO法人チェロ・コンサートコミュニティにて事務局業務に携わる。2010年に株式会社MNHに入社し、2011年に取締役社長に就任。

# Tama Blue&Green Club Business Report 倶楽部事業レポート

多摩ブルー・グリーン倶楽部は、多摩ブルー・グリーン賞受賞企業と選考委員、後援団体による組織です。

受賞企業の経営課題の解決と相互連携および地域経済の振興を目的に、事業を通じて会員相互の連携を深めます。

2019年度に実施した事業の一部をご紹介します。

## 1

### 2019年度 多摩ブルー・グリーン倶楽部総会・情報交換会

実施日：2019年12月16日

多摩ブルー・グリーン倶楽部2019年度総会において、2020年度の倶楽部新役員4名が選出されました。



#### 倶楽部新役員紹介

会 長	東成エレクトロビーム株式会社 代表取締役社長	上野 邦香 氏
副 会 長	金澤建設株式会社 代表取締役社長	金澤 貴史 氏
副 会 長	FSX株式会社 代表取締役社長 兼 最高経営責任者	藤波 克之 氏
副 会 長	株式会社セキコーポレーション 代表取締役社長	山木 孝之 氏

三鷹光器株式会社 代表取締役社長 **中村 勝重 氏**

ものづくり(製造産業)の将来に強い危機感を持っていたが、それぞれの企業が技術などを持ち寄り手を組むことで、大手企業に負けない「すごいもの」を作りたいという思いを、情報交換会に参加して改めて感じることができました。

■ 三鷹光器株式会社 <http://www.mitakakohki.co.jp>

#### 参加者の声



## 2

### 採用・人財育成勉強会 ＜採用・福利厚生＞

実施日：2019年7月19日(金) 参加会員：8社

経営課題の抽出、自社に必要な人材像の明確化、人材活用の方針策定など人材確保についての勉強会を行いました。

FSX株式会社  
専務取締役 **秋葉 勝 氏**

#### 参加者の声

当社は、おしぼりのレンタル・販売をしており、ドライバー職の採用と安定的な定着が大きな課題でした。今回、この採用・人財育成勉強会に参加し、採用に関してはまだまだ課題が残る一方、定着ということでは新しい気付きもあり、また、他社の取り組みが聞けたことが非常に参考になりました。またこのような機会がありましたら、ぜひ参加したいと思います。

■ FSX株式会社 <http://www.fsx.co.jp>

## 3

### 法政大学 中小企業論 ＜社会貢献＞

実施日:2019年6月4日(火)～7月9日(火) 参加会員:6社

法政大学社会学部の学生に講義を行いました。当日は、「経営に対する思い」や「自社のビジネスモデル」などについてお話しいただきました。

株式会社キャリア・مام  
代表取締役 **堤 香苗 氏**

#### 参加者の声

多摩地域は大学が多いにも関わらず、学生がなかなか多摩地域の企業に就職しづらいという現状があります。多摩地域と中小企業の魅力について話をしたところ、学生たちも熱心に聞いてくれ、講義後も1時間半ほど何人かの学生とディスカッションをすることができました。学生が自分の道を見つけるための一助となるべく、多摩ブルー・グリーン倶楽部の会員企業として、社会貢献活動に寄与できたら幸いです。

■ 株式会社キャリア・مام <https://corp.c-mam.co.jp>

## 「第29回例会」のご案内

**日時** 2020年4月17日(金) 14:00(受付開始 13:30)

**場所** たましん事業支援センター [Winセンター]  
(東京都立川市曙町2-8-18 東京建物ファール立川ビル1F)

**内容** **第1部 14:00～16:00**  
《講演》ロバート キャンベル 氏  
**16:10～16:25**  
多摩ブルー・グリーン倶楽部 2020年度事業について  
**16:25～17:05**  
第17回多摩ブルー・グリーン賞 受賞企業のご紹介

**第2部 17:15 ～**  
《情報交換会》会費 1,000円

**申込方法** 以下のURLの受付フォームにて、3月31日(火)までにお申し込みください。  
[https://www.tamashin.jp/bg-club/event\\_app/reikai.html](https://www.tamashin.jp/bg-club/event_app/reikai.html)



### ■ 講師:ロバート キャンベル氏

(日本文学研究者・大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構 国文学研究資料館長)

近世・近代日本文学が専門で、とくに19世紀(江戸後期～明治前半)の漢文学と、漢文学と関連の深い文芸ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。2017年4月から現職。

ニューヨーク市生まれ。カリフォルニア大学バークレー校卒業。ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了、文学博士。

著書に『井上陽水英訳詞集』(講談社)、『東京百年物語』(岩波文庫、共編)他



※新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、中止や延期、内容の一部変更となる可能性があります。

多摩ブルー・グリーン倶楽部事務局

多摩信用金庫 価値創造事業部

東京都立川市曙町 2-38-5 立川ビジネスセンタービル 6F  
TEL : 042-526-7728 E-mail : bg-office@tamashin.net